

小さな生きものの展示コーナー新設！ ～埼玉の生きもの500点を間近で観察～

半田 宏伸

平成31年1月に館内の一部改修を行い、新たに「埼玉の多様な生きものコーナー」を新設しました。

本コーナーでは、コーナー名の通り「埼玉の多様な生きもの」をテーマに、当館の生物展示ホールの大ジオラマでは展示の難しかった、昆虫などの小さな生きものを展示、解説しています。

従来壁面だった場所に展示具を設けて、壁に沿って標本箱を設置できるようにし、標本箱の中の小さな展示物の色や形を間近で観察できるのが特徴です。



埼玉の多様な生きものコーナーの全景

見どころ1「500点以上の豊富な展示標本」

18個の標本箱には植物分野、動物分野の資料が合計500点以上展示されています。箱ごとにテーマを設けて、箱の中で標本同士を見比べることで、そのグループの特徴や種ごとの違いなどを理解しやすくなっています。

植物分野では、松ぼっくりやドングリ、春植物、コケやきのこ、地衣類といった幅広い資料を展示しました。例えば、松ぼっくりを紹介する箱では、県内にみられるアカマツやモミなどマツ科の球果を12種類展示し、一言に「松ぼっくり」といっても、種類ごとに多様な形状があることを紹介しています。さらに、ムササビなどが球果の種を食べたときに残る食痕(通称エビフライ)も展示し、松ぼっくり

と他の生きものとのつながりについても解説しています。ドングリを紹介する箱でも同じように様々なドングリの特徴を見ることができます。その他の箱でも、テーマごとに特徴的な植物を紹介し、植物の形や生態の多様さが理解できるようになっています。



松ぼっくりの展示

動物分野では、昆虫標本を展示しています。コウチュウ目やチョウ目など県内にみられる20以上の分類群を標本箱ごとに展示しています。昆虫図鑑などでよく見かける有名どころから、あまり見ることのないマニアックな種まで、多様に展示しました。

例えば、ハチ目の標本を展示した箱では、スズメバチの仲間やカリバチ、ハナバチの仲間だけでなく、原始的なハチであるハバチやキバチの仲間、形態が特徴的な寄生蜂のウマノオバチ、以前少し話題になった美麗種ミヤマツヤセイボウなど、多様なハチ類を展示しています。その他の分類群では、同じ種で色の違うバツヤカマキリの仲間、嫌われがちなハエの仲間、外来昆虫など、特徴的な昆虫を数多く展示しています。

そして、それぞれの標本は昆虫図鑑に載っているようなポーズに整えられているので、標本同士を見比べて観察しやすく、見ていだけでも、昆虫がいかに多様な生きものであるかを感じ取ることができます。



多様な昆虫標本

見どころ2「より詳しく知るための解説パネル」

展示内容をより詳しく知りたい方には、それぞれの標本箱に対応した解説パネルを設置しています。

パネルには、植物の分類や各分類群の特徴、混同されやすい植物と菌類の違いや、植物の生存戦略、昆虫の分類やグループ同士の類縁関係、グループによって異なる成長様式、グループごとの形態や生態の特徴などを詳細に解説しています。

解説を読みつつ実物を観察することで、埼玉の生きものの多様性の理解をより深めることができます。



詳細な解説パネル

見どころ3「飛翔型の鳥類剥製」

本コーナーでは壁面以外に天井メッシュから、鳥類の剥製を吊るして展示しています。これらは飛翔型と呼ばれる剥製で、翼を広げ飛んでいるときの姿を再現したものです。普段は見るのが難しい

生きているときの様子がうかがえる迫力のある剥製です。これまで常設展示では紹介していなかったヤマセミやオオタカなど、9点の剥製を新たに展示しました。

これらの剥製は触ることができませんが、既存の展示「触れる剥製コーナー」と一緒に動物を間近でご覧いただけます。



ヤマセミ(左)とオオタカ幼鳥(右)

おわりに

埼玉県は、動物・植物が15,000種以上知られている生物相が豊かな地域です。本コーナーでは500点以上の資料から埼玉県の多様な動植物の一端をご覧いただけます。

本展示を通じて生きものの多様性を感じ、埼玉の自然について知るきっかけとなっただけであれば幸いです。

今回ご紹介したのは常設展示のため、当館にお越しいただければいつでもご覧いただくことができます。ぜひ一度、ご来館ください。

(はんだ ひろのぶ・学芸員)

ご来館、
お待ちしております。

